

みんなで力をあわせて前進しましょう



三豊市長

横山 忠 始

新年明けましておめでとうございます。

平成19年が皆様お一人おひとりにとって、幸多き年でありますことをお祈り申し上げます。

三豊市も誕生して1年が過ぎました。まだまだ市として成長するための土台づくりで試行錯誤が続いていますが、各種市長杯をはじめ、市民の皆様が積極的に交流され、新生三豊市の一体感をつくりあげていただいていることは、誠に心強く、感謝申し上げます。

昨年はとにかく三豊市の基礎づくりの年として、今

後の指針となる行政改革大綱と中期財政計画づくり

に集中しました。スピード感の要求される厳しい作業でしたが、関係各位のご協力により、熱心な議論を経て、昨年末に行政改革大綱(案)と中期財政計画(案)をつくりあげることができました。行政改革は市役所改革だけでなく、行政サービスのあり方の改革です。今後、その実施に向けては、市民皆様の格段のご協力とそれぞれが英知を絞った対応をお願いしたいと存じます。

今日の日本は、多くの若い命が失われた明治維新や

太平洋戦争後と同じ大変革

期にあると歴史家や評論家は言います。とするならば、私たちは相当な覚悟でこの時代と向き合わなければなりません。人生はいつも、今まで「ではなくて、今から」をどう生きるかを試されています。新生三豊市にとりまして、特に「今から」を強く模索していかなければなりません。「今まで」に価値観を置き、「今まで」の成功体験にすぎるのはなく、「今から」をどうするか、どう生きるかを、前にしっかりと視線を置いて、みんな

で力を合わせて進んでい

かなければなりません。

今年、出来上がった中期財政計画を指針とし、行政改革大綱を基礎にして、三豊市の夢のある「まちづくり」にいいよ踏み進んでいきたいと存じます。

すでに、市内を広く自由に同一料金で移動できるコミュニティバスにつきましても、その計画の詳細がほぼ出来つつあります。三豊市の一体化を図るうえで欠かせないものだと思いますので、できるかぎり早期に実現できるよう努めてまいります。

夢のある「まちづくり」は、

市民の皆様が生き生きと活動するまちだと思います。

で、安全安心の確保、経済の活性化、健康の増進に向けて、市民の皆様が力を発揮していただくまち、三豊市の充実に向けて努力してまいります。

本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

積極的市民参加のまちづくり



三豊市議会議長

香川 努

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

旧7町からそれぞれに選ばれた30人の議員が、新たな気持ちで真剣に、新しい三豊市の建設に取り組んでいるところであります。

5年に及ぶ合併論議の過程では、紆余曲折があり、それぞれ生みの苦しみを味わいましたが、最終的に7町が歩み寄り、大きな三豊市が誕生して、早や1年が経過いたしました。

昨年は、市発展の基礎をつくる年と位置付け、執行部とともに調整と統一に努めて参りましたが、まだまだ問題が山積みです。市民の皆様にはご不便をおかけしていることと思いますが、ご理解とご協力を賜りお礼を申し上げます。

「自己決定」「自己責任」を機軸とした地方分権が急速に進展し、自治体の自立が求められています。本市財政も厳しく、行財政改革は焦眉の急であります。同時に地域の特色を活かし、積極的市民参加のもと、時代と自然の流れに逆らうこ

となく、未来を見据えて、自立に向けた条件整備に取り組んでいかなければと考えています。

具体的政策の最終決定機関である議会の役割はますます大きく、議員の政策提案も含めて、責任の重さを痛感しているところです。

また、行政に携わる者すべてが、公僕としての自覚を深め、襟を正し、根本に立ち返らなければと思っております。

昨年は、香川西高野球部が甲子園出場を果たし、詫間電波高専が全国高専ロボットコンテストで優勝する

など、多くの若者が三豊市の名を全国に発信してくれました。

情報を共有しながら、市民と行政が一体となって、一日も早く合併して良かったと実感できる三豊市を創るために、皆様の期待に応えられるよう、議員一同決意を新たにしているところ

であります。市民の皆様のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして素晴らしい年となりますことを心からお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

三豊市議会

議長

香川

副議長

近藤

市議会議員

多田

坂口

眞鍋

大西

金丸

宝城

横山

為山

瀧本

岩田

三宅

肥田

川北

近藤

三木

大平

小林

小田

大田

眞鍋

城平

中山

金山

山本

諫本

藤田

川崎

賢

一

治

勉

典

敏

文

員

樹

子

史

強

明

樹

志

弘

武

司

治

一

敏

典

文

員

樹

子

史

強

明

樹

志

弘

武

正